

防雪柵などの要望個所、今年も現地調査

新井柿崎線整備促進議員連盟による現地調査が7月31日行われました。板倉区から吉川区のゆったり郷まで、歩道、防雪柵などの整備が要望されているところをマイクロバスでまわり、歩いて現地の状況を確認してきました。

現地調査後、上越地域振興局を訪れ、道路改良、防雪柵設置、交差点改良、歩道設置などの要請書を手渡し、意見交換しました。

吉田地域整備部長は、県道新井柿崎線について、「地域整備部として最優先で整備すべき路線だ」と述べ

ました。計画調整課長は、三和区沖柳の歩道整備について、「今年度は調査費がついた。来年度は設計に入りたい」とし、桑曾根川橋については、「今年度の秋に点検し、それを踏まえて改良か歩道単独橋にするか考える」と述べました。道路課長は、三和区下中の道路改良に関して、「地図困難がある。解決に向けて土地改良と調整しながら取り組んでいきたい」と答えていました。維持管理課長は、「防雪柵の設置要望は5カ所ある。今年度は150メートル整備するが、引き続き努力して

いきたい。板倉区の側溝設置は県庁に要望をあげている」と述べていました。

吉田地域整備部長は、話の中で、春日新田小学校3年生が作成した道路についての俳句集を紹介、「道路には、名前があるよ、すごいよね」などを引用しながら、「道路への思いを共有しながら整備していきたい」と語りました。ハード面だけでなく、こうしたソフト面での取組の重要性の指摘にハッとしました。



【サジガンクビソウ】キク科の多年草。漢字で「匙雁首草」と書きます。花期は8月から9月です。ガンクビソウの仲間のひとつ。どなたが名前をつけたのかわかりませんが、ちょっとかわいそうな名前ですね。花言葉は「小さな愛情」。写真は2日、吉川区代石にて撮りました。



「情報学習支援員増やして」などの声相次ぐ

3月議会に補正予算で出てきたGIGAスクール構想の取組について7月30日、文教経済常任委員会にて調査が行われました。

この構想は、平成5年度までに、校内における高速大容量の通信ネットワークを整備するとともに児童生徒1人1台の情報端末を整備し、「多様な子どもたちを誰ひとり取り残すことなく、子どもたち一人ひとりにもっとも適した（個別最適化）というのだそうです」学びを実現しようというものです。

この日、市教委からは、校内通信ネットワーク整備事業の取組の経過や児童生徒が使用する情報端末整備事業の取組と今後の方針について報告がありました。



委員からは、「適応指導教室へももっと光を当ててほしいという声がある」「情報端末の取扱方針、将来的な活用方針についてはどう考えるか」「学習情報支援員は4人ということだが各校への配置はできないのか」などの質問が出ました。

市教委側は、「ズームによる学校と不登校生徒が交流できるよう試験的にやっている。効果を確かめながらルール作りも考えていきたい」「端末を使うことによってより良い授業にすることが目的だ。授業によっては端末を使わない方がいいこともある」「各校に1人配置は様々な要因で難しい。教員のスキルアップ等に対応していきたい」などと答えていました。

都合により、臨時議会での総括質疑の記事は先送りします。赤旗日曜版9月号と16月号は合併号です。

はしづめ法一の活動レポート

No.1971 2020.8.9

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第六一八回

通院付き添い

最近、母の通院に付き添うことが楽しみになってきました。母と一緒に過ごす貴重な時間となっているからです。

先日は、お世話になっている介護施設に母を迎えに行き、病院から戻るまでの四時間ほどを母と一緒に過ごしました。

迎えに行ったのは午前八時半です。施設の玄関前まで行って、インターホンを使って声を掛けると、「橋爪さーん、お迎えですよ。きょうは病院に行くんだよ」というスタッフの方の声が聞こえてきました。

軽乗用車に乗せると、いつもの茶色のヘアネットを頭に着用した母は車の前方をじっと見たまま、黙っています。私から、「さみしくなかったかね」と声をかけると、「なーんも」という言葉が返ってきました。

母の体調の良し悪しは、車に乗った時の会話の様子で判断できます。こちらから声をかけても反応がないときは体調が悪い。反応があるときはまずまず。自分からしゃべるときは上々の体調です。

この日はくるみ家族園を過ぎ、カントリーが見える頃になってから、母がしゃべりはじめました。

「穂、いっぱい出てるなー」

「そうだね、五百万石だと思ってる」

「粒、でっけーがご」

「おらちも五百万石、作ってたよね」

「だと思ってる」

「そう言えば、おまん、小貴（こつなぎ）知ってるかね、足谷の奥の……」

「知ってるよ、足谷から道あったもんだ」

「おれ、みんな、小貴（出身）の人に会ったがど。おまん、行ったことあるか」

「あるよ。足谷んちの近くから山越えて小貴に行く道あって行った。何軒もねかったよ」

「こんな調子での会話が病院に到着するま

で続きました。五百万石は酒米です。そして小貴は、旧松代町の集落の一つで、旧大島村の足谷の近くにありました。

病院に着いてからは、それこそ母の付き添い本番です。九時二十五分から血液検査が始まりました。

番号札を提示した後、「お名前、言ってもらってもいいですか」ときかれた母は何を思ったのかマスクを外し、「はい、橋爪エツです」としっかりと答えました。

検査用の血液は三本。やせ細った右腕を差し出すと、看護師さんが母の手をとり、アルコールをつけて針を刺しました。一本目の採取では、血液が管の中をシゅーと流れていくのが見えました。

続いてレントゲン検査。こちらもわずか五分ほどで終了しました。九時四〇分には内科に戻り、診察へ。入院時からお世話になっているお医者さんから、「貧血は改善されましたね。肺の方も良くなっていますよ」と言われてホッとしました。

この日は診察、会計が終わるまで三時間半ほどかかりました。前回よりも時間がかかったので母も気になったのでしょね、ずっと車イスに乗りっぱなしだった母は、「腰かけてばっかいたすけ、ケツ痛くなつと。とちや、オレ、入院しねきゃならんが」ときいてきました。

ちよっといたすらうばく、「おまん、入院してが」と言っていると、「なしてー」。入院しないでいいことを悟った母は、安心してたよです。

「何時だか知らんけど、腹減ったな。とちや、新井線のヒラサワさんここ寄って、押し寿司買ってこい」とも言いました。

これだけ食欲があれば体調は最高。この日は時間がなく、別のお店で押し寿司を買い、車中で少し食べてもらいました。「どうだね、味は」とたずねると、母は「うんめ」と言いつつ何度もうなずきました。

光徳寺作品展、今年で11回目



2日の午後、今年で11回目となる光徳寺（柿崎区直海浜）作品展を観てきました。第1回作品展の出展者は3人だったのが、どんどん広がって今回は83人となりました。すごいことです。

ここの作品展の特徴のひとつは、誰でも無料で展示できることです。県展に入賞するような作品もあれば作品づくりを始めて間もない人の作品もあります。みんな平等に展示されています。特徴の2つ目。ここの作品展での展示を契機に作品づくりを発展させている人が何人もいます。私の友人のお連れ合いはバックづくりだけでなく、今回は帽子づくりにも挑戦しています。作品について語り合い、一定の評価もしてもらいえる、それが励みになって飛躍へとつながっているのだと思います。そして3つ目の特徴、今回の作品展は16日までですが、途中で出展者が増えるのです。作品を鑑賞しながら、「私も出してみよう」という気持ちになるのです。こんな作品展は全国でもここだけでしょうね。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月29日(水)	8月5日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.043	0.047
頸南消防署	0.067	0.050
東頸消防署	0.053	0.047
名立分遣所	0.057	0.053
高士分遣所	0.057	0.053



梅雨明けで干びょうづくり

梅雨明けを待っていたかのように干びょうづくりが始まりました。今年はユウガオの育ちが悪いという声を聞きました。晴れが続いて、おいしい干びょうができると思います。中郷区片貝にて。